

○ 拂良察國高船

此地球全圖原寬政年間
東都司馬峻考索於紅毛
國銅版之漆而新製萬

國之圖者
我邦銅版之權與之
予雖然其圖機密
之至不便老眼
故倍于舊製
以二度為一
度只恐老
眼筆益多
巧既落錯
亂也且勿
本國之

四隅著
國軍船高
船一二心
以合子等知
海國備處
之一端是吾
微意也

德島大学 附属図書館 概要

令和2年度

The Outline of
Tokushima University Library
2020

○ 此船文化十三巳丑年十二月起州沖ヨリ
阿州并歧州江漂流土州沖江高帆シ
西洋ニ出シ去ル何國モ陸ノ備嚴ナル
力故不日ニシテ去ル是イキリス近國
西洋ヲ東ル高船十二ヤ
未詳

德島大学附属図書館

Tokushima University Library

阿波國天文堂

目次

	館長挨拶	1
	理念・目標	2
	ビジョン2020	3
	沿革	4
	附属図書館の基礎データ	5
	組織機構	6
	歴代館長・分館長・副館長	7
	館内図（本館）	8
	館内図（分館）	10
	特色ある取組	12
	貴重資料	14
	特殊資料	16
	所在地・交通案内	17

館長挨拶

このたび附属図書館館長に就任いたしました依岡です。2年間の任期で、今までの副館長としての経験を活かしながら、精一杯職務を全うしていくつもりですので、どうぞよろしくお願いいたします。就任にあたりまして、「**知の広場**」という私のヴィジョンについて述べさせていただきます。以下、**集いの場**作り、**研究交流**、**学習支援**、**読書振興**、**地域貢献**という点から説明します。



私は附属図書館について、人と人、知と知が出会い創発を生む「**知の広場**」というヴィジョンを掲げたいと考えています。IT技術の発展によって検索機能が普及・簡便化してきており、ただ一定の蔵書を有し情報検索サービスをするだけでは、これからの図書館は存在理由を問われかねません。図書館は、さまざまな知と知がつながり、学生と教員、職員、社会人がつながり、地域社会がつながる集いの場であるべきでしょう。そうした場合は、単に情報が集積しているというのではなく、思いがけない発想や出会いがあり、異なる人々や異なる専門が対話できるリアルな場があって初めて、可能となると考えます。

図書館がこのような**集いの場**であるためには、図書館に関わる人たちには 徳島大学附属図書館長
「つなげる」ために、現場へさらに半歩踏み込むことを求めたいと思います。 **依岡 隆児**
アンケートを行うなどして利用者のニーズに耳傾け、図書館レファレンス機能を強化し、読書会やイベントの企画運営を行うファシリテーターを養成していきます。また教員・職員・学生も交えたミーティングを開催して、附属図書館のあり方を不断に検証し改善につなげていきたいと考えています。このような取り組みは「大学改革プラン」にある**教職協働のモデル**ともなるでしょう。

研究交流に関しては、電子ジャーナル契約費の高騰の問題は深刻に受けとめています。たしかに、すでに一部の電子ジャーナルで契約の見直しをせざるを得ない状態になってはいますが、各部署の意向に配慮しながら今後も可能なかぎり存続できるよう、検討していくつもりです。情報公開や情報発信等の推進については、機関リポジトリの登録促進により**オープンアクセス化**を図り、情報公開と研究教育環境の整備を一層推し進めてまいります。また学内にすでに蓄積されている研究情報データを集積し公開するよう努めます。こうした専門分野の枠を越えた情報探索を可能にする取り組みは、図書館だからできる研究交流の一つと考えています。

学生の**学習支援**については、SSS (Study Support Space) に積極的に院生を採用し、授業のレポート作成の指導を受講生に受けさせることで、これを学生同士の学び合いの場にしていきます。こうした活動は、アクティブ・ラーニングにもつながるばかりでなく、学生同士による汎用的技能習得の補助という点で、図書館にふさわしいものです。また出版社や書店の協力のもと電子書籍の本格導入も図り、それらを授業で活用できるようにしていきます。**ラーニング・コモンズ**については、現在の混在化した状況を是正し、交流スペース、読書スペース、グループ学習スペースにより明確に分けていくべきと考えます。交流の場としてのカフェスペースについても検討したいと考えています。

読書振興に関しては、全国的に読書離れが進んでおり、大学生も二人に一人が本を読んでいないともいわれています。読書を取りまく状況には厳しいものがあります。図書館もこうした学生の読書離れに対して手をこまねているわけにはいきません。テーマ本棚の設置、読書会やビブリオバトル、ブックトークの開催、学部の授業との連携によって読書啓発を推進していきます。具体的には総合科学部での「読書レポート」などにおける課題図書との調達と関連資料の検索指導や、図書館職員との協働による授業展開、専門の授業における授業サポートナビの活用を促進を考えています。

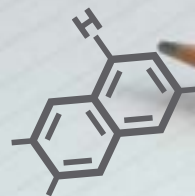
さらに**地域貢献**として、徳島県の「読書立県」の取り組みを支援し、県立・市立の図書館や他大学とも緊密に連携をとりながら、地域の読書啓発については文化育成に寄与したいと考えています。そのための一策として、学部の協力のもと図書館主催の連続講演会を開催し、研究交流と地域交流を展開するとともに、地域における図書館サポート組織を構築したいと考えております。**寄附金の増加対策**としての「古本募金」事業は引き続き継続していきませんが、さらにこれを古本市（ブックバザール）などと連動させるなどして、地域交流に資するようにもしたいと考えています。

以上のような「**知の広場**」として、附属図書館が大学ならびに地域に根づくように、私は微力ながら努めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（平成31年4月）



理念

徳島大学附属図書館は、徳島大学の理念・目標を実現するため、徳島大学の教育・学修と研究活動を支える重要な学内組織としての役割を担うとともに社会にも開かれた図書館として、学生等利用者の来館型図書館・参加型図書館を目指します。



目標

- (1) 附属図書館は、学生、教職員及び地域住民のニーズを把握し、質の高い利用者サービスの提供に努めます。
- (2) 附属図書館は、学生の主体的な学習に必要な資料を整備するとともに学習形態に即した利用空間・利用環境の提供に努めます。
- (3) 附属図書館は、徳島大学の教育・研究を支える最新の学術情報資料を整備し、多様な学術情報資源の効率的な収集及び管理を行い、学術情報提供の最適化に努めます。
- (4) 附属図書館は、徳島大学における教育・研究成果を積極的に集積し、発信することにより、学術情報の流通推進と国立大学としての社会的責任（教育研究成果の還元、情報公開）を果たせるよう努めます。
- (5) 附属図書館は、所蔵資料の公開等を通じて、地域社会の文化振興に努めます。



平成 28 年、『国立大学図書館協会ビジョン 2020』が策定され，大学図書館の新たな基本理念として「大学図書館は，今日の社会における知識基盤として，記録媒体の如何を問わず，知識，情報，データへの障壁なきアクセスを可能にし，それらを活用し，新たな知識，情報，データの生産を促す環境を提供することによって，大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する」と定められました。附属図書館は，これに基づく新たなビジョンとして，以下を定め，3つの目標を設定しました。

徳島大学附属図書館は，「知の広場」の創出により，異世代・異分野交流を活性化し，学生の能動的な学習を促すと共に，本学の学術情報基盤を発展させ，イノベーションを生み出す風土を醸成する。

目標 1 「知の広場」の創出 ～新たな図書館整備構想～

目標 2 読む力の向上 ～読書振興と学習支援～

目標 3 オープンサイエンス推進 ～学術情報基盤の整備と拡充～

目標実現のため，5つの領域において令和3年度までの重点的な取組を推進していきます。

1 教育支援	<ul style="list-style-type: none">・「知の広場」の創出・読書振興策による読む力の向上・学生協働による学習支援
2 研究支援	<ul style="list-style-type: none">・機関リポジトリ登録促進・オープンサイエンス推進・電子ジャーナル等の計画的整備
3 地域貢献	<ul style="list-style-type: none">・学外者への広報強化・生涯学習，文化活動，課題解決支援・大学情報（イベント等）の発信
4 環境整備	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリー，安全，防災，BCP・IT環境整備・キャンパス全体の読書環境整備
5 マネジメント	<ul style="list-style-type: none">・新たな人材配置と活用・PDCAに基づく内部質保証・自己収入による財源確保

（令和2年3月18日附属図書館運営委員会決定）

<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/pub/vision/vision2020.pdf>

【昭和】

- 22.11 徳島医学専門学校図書館（蔵本分館）設置
- 23. 2 徳島医科大学図書館と改称
- 24. 5 徳島大学医学部分館と改称
- 24. 5 学芸学部，医学部，工学部の3図書分館が発足
- 26. 4 薬学部設置により工学部図書分館を併用
- 27. 5 附属図書館（本館）設置
- 27. 5 学芸学部，工学部の2図書分館を併せて常三島分館と改称
- 27. 5 医学部分館を蔵本分館と改称
- 37. 3 蔵本分館書庫新築完成
- 38. 2 蔵本分館事務室新築完成
- 38. 4 薬学部関係図書を常三島分館から蔵本分館へ移転
- 43. 4 常三島分館廃止（本館に包括）
- 46. 3 常三島地区に本館新築完成
- 53. 3 本館書庫を4層から5層に1層増設完成
- 54. 3 蔵本分館増築完成
- 60. 3 本館増築完成



附属図書館本館（昭和27年3月竣工の旧常三島分館）



旧蔵本分館外観（昭和38年頃まで存続）

※1 上記の沿革は、施設の発足・設置、新築・増設・改修のほか附属図書館の運用・サービスの上でポイントとなるイベントに限定して掲載しています。



【平成】

- 2. 2 附属図書館専用電子計算機を導入
- 6. 9 蔵本分館（東館）増築完成
- 9. 1 本館学術雑誌閲覧室設置
- 10. 4 附属図書館ホームページ開設
- 10. 4 貴重資料高精細デジタルアーカイブ公開
- 10. 4 図書自動貸出装置を導入
- 10.10 特殊資料閲覧室・展示室の設備
- 12. 3 夜間入退館管理システムを導入（蔵本分館）
- 18. 2 「附属図書館整備計画」策定
- 19.12 蜂須賀家家臣団家譜史料データベースの公開
- 21. 3 本館改修竣工
- 21. 5 本館リニューアルオープン（一部開館）
- 21. 6 自動入館システムの開始
- 21. 6 本館リニューアルオープン記念式典，正式開館
- 21.11 太陽光発電パネル設置竣工（本館）
- 22.10 徳島大学機関リポジトリの正式運用開始
- 24. 1 ラーニング・コモンズ本館 1 階にオープン
- 24. 3 蔵本分館改修工事竣工
- 24. 5 蔵本分館リニューアルオープン記念式典，開館
- 25. 3 徳島市立図書館と連携協力に関する協定を締結
- 25. 4 「Study Support Space」運営開始（本館）
- 25.10 「図書館の改革の方針」策定
- 26. 3 「徳島大学附属図書館：理念・目標と評価指標」制定
- 26.10 中村修二教授 2014 ノーベル物理学賞受賞記念展示
- 27. 1 本館ラーニング・コモンズ整備
- 27. 2 伊能図学習システムの公開
- 28. 1 「オープンアクセスに関する方針」学長裁定
- 29. 3 徳島大学・鳴門教育大学・徳島県・徳島県教育委員会による図書館活動に係る連携協定を締結

【令和】

- 2. 3 「徳島大学附属図書館ビジョン 2020」制定

◆面積 8,279 m²

（本館 5,112 m² 蔵本分館 3,167 m²）

◆座席数 1,092 席

（本館 638 席 分館 454 席）

◆提供資料数

・ 図書 668,433 冊

（本館 485,663 冊 分館 182,770 冊）

・ 雑誌 19,300 種類

（本館 12,740 種類 分館 6,560 種類）

・ 電子ジャーナル
60,154 種類

・ 電子書籍
4,662 冊

令和元年度年間受入図書

5,716 冊

（本館 3,908 冊 分館 1,808 冊）

令和元年度年間受入雑誌

1,129 種類

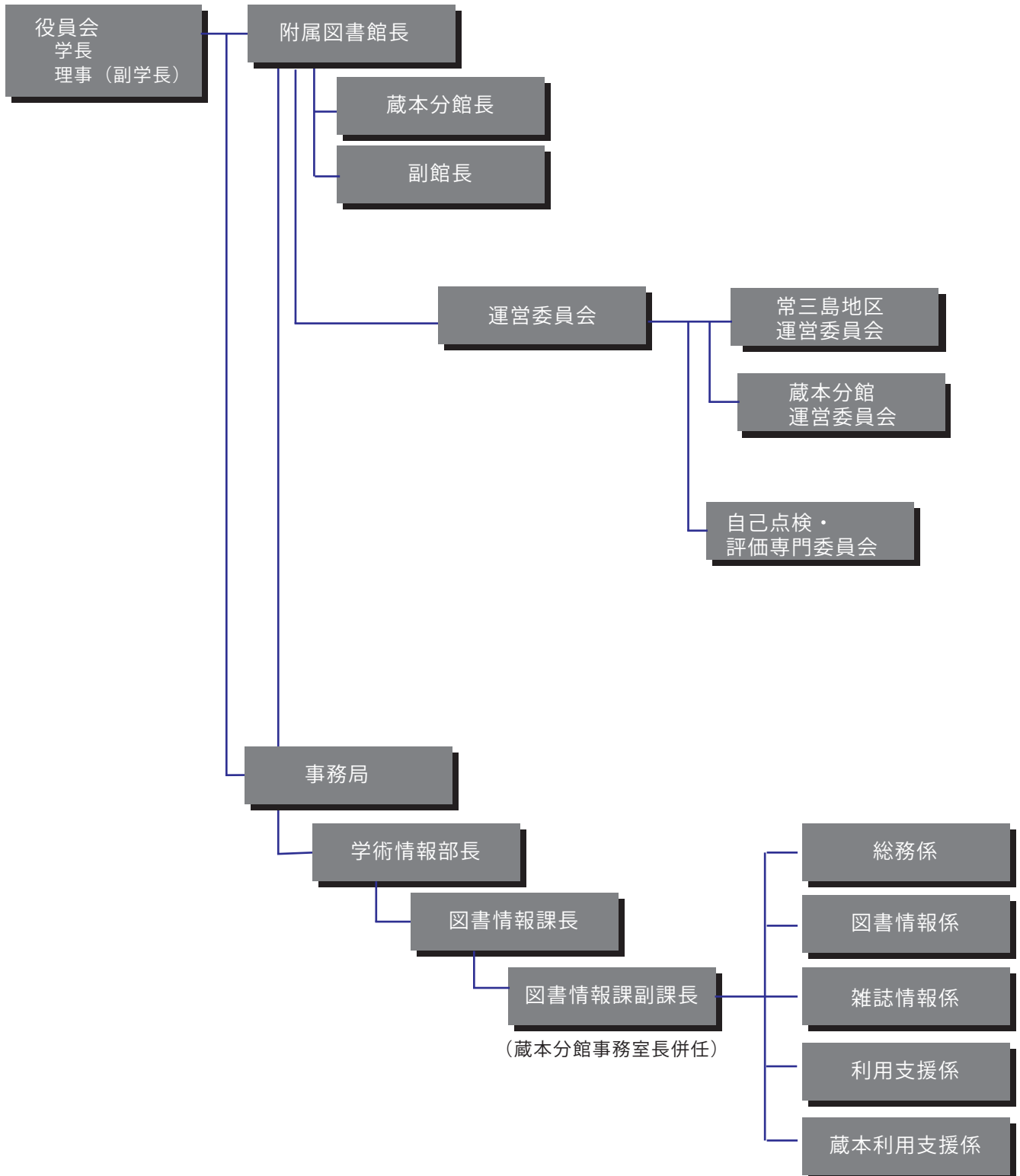
（本館 743 種類 分館 386 種類）





組織機構

令和2年4月1日現在





歴代館長・副館長



歴代分館長

○ 附属図書館長

初代	松田 亮一 (工学)	昭 27. 5.23~	昭 29. 5.22
2	市来崎 寿蔵 (薬学)	昭 29. 5.23~	昭 31. 5.22
3	市来崎 寿蔵 (薬学)	昭 31. 5.23~	昭 33. 3.31
4	冲野 舜二 (学芸)	昭 33. 4. 1~	昭 35. 3.31
5	高島 律三 (医学)	昭 35. 4. 1~	昭 37. 3.31
6	伊藤 努 (工学)	昭 37. 4. 1~	昭 38. 7.17
7	田村 昇 (薬学)	昭 38. 7.18~	昭 40. 7.17
8	宮城 文雄 (教育)	昭 40. 7.18~	昭 42. 7.17
9	鈴木 幸夫 (医学)	昭 42. 7.18~	昭 44. 7.17
10	鈴木 幸夫 (医学)	昭 44. 7.18~	昭 46. 7.17
11	丸山 隆玄 (工学)	昭 46. 7.18~	昭 48. 7.17
12	丸山 隆玄 (工学)	昭 48. 7.18~	昭 49. 4. 1
13	吉田 長之 (医学)	昭 49. 4. 2~	昭 51. 4. 1
14	富本 健輔 (教養)	昭 51. 4. 2~	昭 53. 4. 1
15	松本 淳治 (医学)	昭 53. 4. 2~	昭 55. 4. 1
16	竹治 貞夫 (教育)	昭 55. 4. 2~	昭 57. 4. 1
17	小林 茂 (薬学)	昭 57. 4. 2~	昭 59. 4. 1
18	浦川 和馬 (工学)	昭 59. 4. 2~	昭 60. 4.18
(取)	川田 十三夫 (医学)	昭 60. 4.18~	昭 60. 7.31
19	川田 十三夫 (医学)	昭 60. 8. 1~	昭 62. 7.31
20	須鎗 和巳 (教養)	昭 62. 8. 1~	平元. 7.31
21	宮本 博司 (医学)	平元. 8. 1~	平 3. 7.31
22	後藤 健次 (総合)	平 3. 8. 1~	平 5. 7.31
23	井上 秀夫 (歯学)	平 5. 8. 1~	平 7. 7.31
24	青山 吉隆 (工学)	平 7. 8. 1~	平 8. 3.31
25	河野 清 (工学)	平 8. 4. 1~	平 9. 3.31
26	寺田 弘 (薬学)	平 9. 4. 1~	平 11. 3.31
27	岩田 紀 (総合)	平 11. 4. 1~	平 13. 3.31
28	森田 雄介 (医学)	平 13. 4. 1~	平 15. 3.31
29	林 弘 (工学)	平 15. 4. 1~	平 17. 3.31
30	細井 和雄 (歯学)	平 17. 4. 1~	平 19. 3.31
31	石川 榮作 (総合)	平 19. 4. 1~	平 21. 3.31
32	際田 弘志 (薬学)	平 21. 4. 1~	平 23. 3.31
33	野地 澄晴 (工学)	平 23. 4. 1~	平 24. 3.31
34	青江 順一 (工学)	平 24. 4. 1~	平 25. 3.31
35	福井 義浩 (医学)	平 25. 4. 1~	平 27. 3.31
36	吉本 勝彦 (歯学)	平 27. 4. 1~	平 29. 3.31
37	吉本 勝彦 (歯学)	平 29. 4. 1~	平 31. 3.31
38	依岡 隆児 (総合)	平 31. 4. 1~	

○ 附属図書館副館長

初代	依岡 隆児 (総合)	平 26. 4. 1~	平 27. 3.31
初代	吉本 勝彦 (歯学)	平 26. 4. 1~	平 27. 3.31
2	依岡 隆児 (総合)	平 27. 4. 1~	平 28. 3.31
2	鶴尾 吉宏 (医学)	平 27. 4. 1~	平 28. 3.31
3	依岡 隆児 (総合)	平 28. 4. 1~	平 29. 3.31
4	依岡 隆児 (総合)	平 29. 4. 1~	平 30. 3.31
4	武藤 裕則 (理工)	平 29. 4. 1~	平 30. 3.31
5	依岡 隆児 (総合)	平 30. 4. 1~	平 31. 3.31
5	武藤 裕則 (理工)	平 30. 4. 1~	平 31. 3.31
6	吉本 勝彦 (歯学)	平 31. 4. 1~	令 2. 3.31
7	鶴尾 吉宏 (医学)	令 2. 4. 1~	
7	上田 哲史 (情セ)	令 2. 4. 1~	

○ 常三島分館長

初代	岸本 実 (学芸)	昭 27. 5.23~	昭 29. 5.22
2	安村 二郎 (工学)	昭 29. 5.23~	昭 31. 5.22
3	冲野 舜二 (学芸)	昭 31. 5.23~	昭 33. 3.31
4	平形 照男 (薬学)	昭 33. 4. 1~	昭 35. 3.31
5	久米 泰三 (工学)	昭 35. 4. 1~	昭 37. 3.31
6	富野 敬邦 (学芸)	昭 37. 4. 1~	昭 39. 3.31
7	杉野 捨三郎 (工学)	昭 39. 4. 1~	昭 41. 3.31
8	幸泉 芳夫 (教育)	昭 41. 4. 1~	昭 43. 3.31

昭和 43 年 3 月 31 日廃止 (本館に包括)

○ 蔵本分館長

初代	黒田 嘉一郎 (医学)	昭 27. 7.22~	昭 29. 3.31
2	梶本 義衛 (医学)	昭 29. 4. 1~	昭 31. 3.31
3	吉田 長之 (医学)	昭 31. 4. 1~	昭 33. 3.31
4	新見 嘉兵衛 (医学)	昭 33. 4. 1~	昭 35. 3.31
5	高島 律三 (医学)	昭 35. 4. 1~	昭 37. 3.31
6	高島 律三 (医学)	昭 37. 4. 1~	昭 39. 3.31
7	棚瀬 弥一郎 (薬学)	昭 39. 4. 1~	昭 41. 3.31
8	鈴木 幸夫 (医学)	昭 41. 4. 1~	昭 42. 7.17
9	四方 一郎 (医学)	昭 42. 7.18~	昭 45. 3.31
10	小林 茂 (薬学)	昭 45. 4. 1~	昭 47. 3.31
11	山田 正興 (医学)	昭 47. 4. 1~	昭 49. 3.31
12	川田 純 (薬学)	昭 49. 4. 1~	昭 51. 3.31
13	松本 淳治 (医学)	昭 51. 4. 1~	昭 53. 3.31
14	亀谷 富士夫 (薬学)	昭 53. 4. 1~	昭 55. 3.31
15	檜澤 一夫 (医学)	昭 55. 4. 1~	昭 57. 3.31
16	高田 充 (歯学)	昭 57. 4. 1~	昭 59. 3.31
17	川田 十三夫 (医学)	昭 59. 4. 1~	昭 60. 7.31
18	塚谷 博昭 (薬学)	昭 60. 8. 1~	昭 63. 3.31
19	宮本 博司 (医学)	昭 63. 4. 1~	平元. 7.31
20	坂東 永一 (歯学)	平元. 8. 1~	平 3. 3.31
(取)	宮本 博司 (医学)	平 3. 4. 1~	平 3. 7.31
21	山下 卓哉 (薬学)	平 3. 8. 1~	平 5. 7.31
22	森田 雄介 (医学)	平 5. 8. 1~	平 7. 7.31
23	上村 修三郎 (歯学)	平 7. 8. 1~	平 9. 7.31
24	石村 和敬 (医学)	平 9. 8. 1~	平 11. 7.31
25	山内 卓 (薬学)	平 11. 8. 1~	平 13. 7.31
26	細井 和雄 (歯学)	平 13. 8. 1~	平 15. 7.31
27	泉 啓介 (医学)	平 15. 8. 1~	平 17. 7.31
28	樋口 富彦 (薬学)	平 17. 8. 1~	平 19. 7.31
29	福井 義浩 (医学)	平 19. 8. 1~	平 21. 7.31
30	福井 義浩 (医学)	平 21. 8. 1~	平 22. 3.31
31	吉本 勝彦 (歯学)	平 22. 4. 1~	平 24. 3.31
32	長篠 博文 (医学)	平 24. 4. 1~	平 26. 3.31
33	南川 典昭 (薬学)	平 26. 4. 1~	平 28. 3.31
34	鶴尾 吉宏 (医学)	平 28. 4. 1~	平 30. 3.31
35	鶴尾 吉宏 (医学)	平 30. 4. 1~	令 2. 3.31
36	瀧田 賢一 (歯学)	令 2. 4. 1~	

(取)は「事務取扱」の意



1F

協調学習と資料保存のフロア

1階は
会話OK



📷 J1 本館玄関

IC対応の学生証や職員証、バーコード入館証に対応しています。



📷 J2 カフェテリア

コミュニケーションの象徴です。自動販売機・複写機を設置しています。



📷 J3 中央書庫周辺

洋雑誌のバックナンバーを開架式の集密書架に配架しています。



📷 J4 1階西書庫

古い蔵書、研究室返却図書を集密書架に配架・保存しています。



📷 J5 1階マルチメディアコーナー

学生用のパソコンを設置しています。会話しながら利用できます。



📷 J6 ラーニング・commons

学生のグループ学習や講義、イベント等に利用できます。



📷 J7 グループ研究室

数名のグループによるメンバー間のディスカッションなどに最適です。



📷 J8 視聴覚コーナー

図書館で所蔵している映像・音楽資料を楽しめます。



上：ラーニング・commonsのパノラマ写真

📷 J9 和装本資料室・貴重資料室

本学の貴重資料を管理・調湿保存している2階特別書庫。



カウンター

廊下・ラウンジ

閲覧室・自習席

マルチメディア

ユーティリティ

書庫・書架

エレベーター

階段

自動体外式除細動機
(心臓停止時の救命装置)

トイレ

車イス用トイレ

自動販売機

複写機

学生用パソコン

視聴覚機器

天吊式プロジェクター

2F

自然科学系・社会系図書と自学自習のフロア

2階は
お静かに



📷 J10 2階研究個室

写真奥に見えるのが研究個室です。パソコンを設置しています。



📷 J11 2階西閲覧室

社会系の学生用図書を配架しています。窓際に学習席を配置しています。



📷 J12 2階学習室

個人ブースとして自学自習に使えます。学生に人気の高いエリアです。



📷 J13 2階東閲覧室

自然科学系の学生用図書を配架しています。窓際に学習席を配置しています。



3F

人文系図書と資料保存のフロア

3階は
お静かに



📷 J14 多目的ホール

学術講演会や会議など多目的に利用できます。



📷 J15 3階マルチメディアコーナー

講習会やレポート作成に利用できる学生用パソコンを設置しています。



📷 J16 4階書庫

3階・4階の書庫には、和雑誌のバックナンバーを配架しています。



📷 J17 3階東閲覧室

人文系の学生用図書を配架しています。窓際に学習席を配置しています。



1F 協調学習と資料保存のフロア

1階は会話OK



📷 K1 正面玄関

雨避けの庇と車イス用スロープ完備しています。南壁にブックポストを設置しています。



📷 K2 南書庫

古くなった資料、厚生労働省報告書などを配架・保存しています。



📷 K3 テーマ展示

生命科学関係を中心としたテーマで図書やアプリを紹介しています。



📷 K4 複写コーナー

図書館資料を著作権の範囲で複写できます（有料）。



📷 K5 新聞コーナー

毎日の新聞を閲覧できる。新着雑誌も近くに配架。



📷 K6 リフレッシュコーナー

自動販売機を設置。雑談や飲食をしながら気分転換。



📷 K7 雑誌書庫

雑誌のバックナンバーを開架式の集密書架に配架。



📷 K8 ラーニング・commons

学生のグループ学習や講義に使うことができます。



- 📷 カウンター
- 📷 廊下・ラウンジ
- 📷 閲覧室・自習席
- 📷 マルチメディア
- 📷 ユーティリティ
- 📷 書庫・書架

- 📷 エレベーター
- 📷 階段
- 📷 自動体外式除細動機 (心臓停止時の救命装置)
- 📷 トイレ
- 📷 車イス用トイレ
- 📷 自動販売機
- 📷 複写機
- 📷 教育用パソコン
- 📷 視聴覚機器
- 📷 天吊式プロジェクター

📷 K9 西出入口

ラーニング・commonsの西側にも図書館出入口を配置。

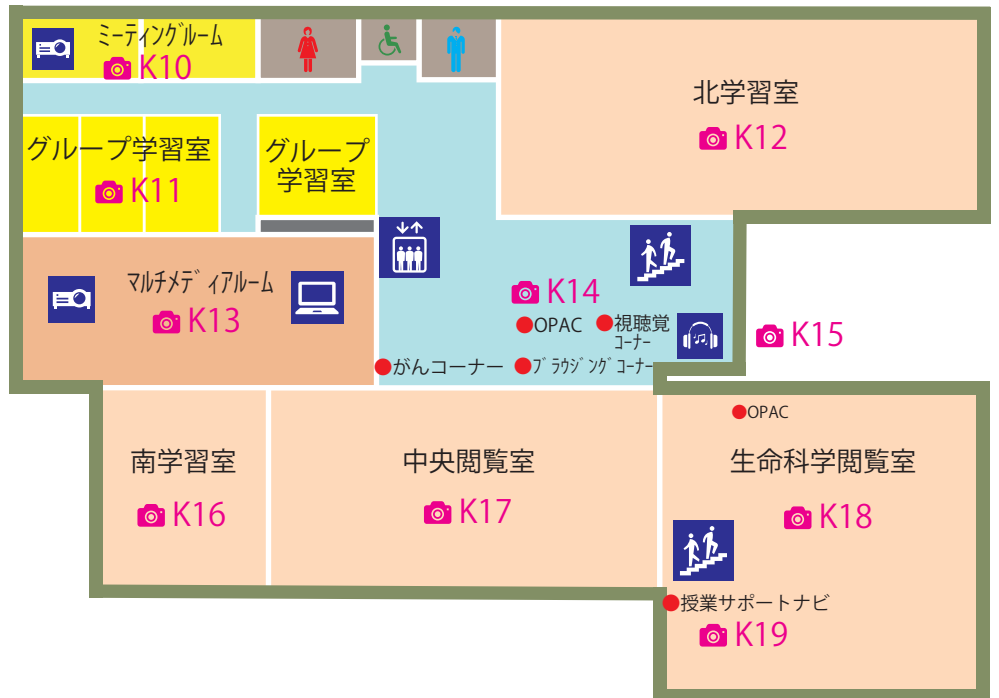


2F 閲覧室と学習室のフロア

右図の黄色室内は
会話OK



上記以外の区域は
お静かにお願いします。



📷 K10 ミーティングルーム
セミナー等に利用でき、間仕切りを外すと、32人用の部屋になります。



📷 K11 グループ学習室
少人数利用に適した部屋が4室あり、PCやBIGPADを備えています。



📷 K12 北学習室
個人ブースと資料を広げて使える机を配置した学習室です。



📷 K13 マルチメディアルーム
学生用のパソコンを設置しています。



📷 K14 ブラウジングコーナー
週刊誌や軽い読み物をゆったりとソファで利用できます。



📷 K15 視聴覚コーナー
生命科学や語学を中心とした視聴覚資料を利用できます。



📷 K16 南学習室
学生が静かに集中して勉強するための学習室です。



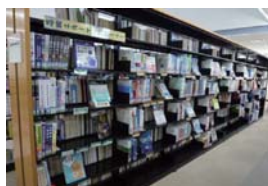
📷 K17 中央閲覧室
社会福祉や語学、小説など生命科学以外の図書を配架しています。



📷 K18 生命科学閲覧室
生命科学系の学生用図書や参考図書を配架しています。



📷 K19 授業サポートナビ
教員紹介の講義図書を集めて生命科学閲覧室に設置しています。



電子黒板 [BIGPAD] の活用

徳島大学附属図書館では本館・分館の協調学習を行える空間に電子黒板 [BIGPAD] を設置しています。蔵本分館では1階テーマ展示や2階グループ学習室等に設置して、展示アプリの表示ディスプレイに使ったり、グループ学習や授業に多用途に利用されています。





特色ある取組

教育支援

本館・蔵本分館共に、話しながら学習できるラーニング・commonsを設けています。文献検索講習会や資料のテーマ展示、授業サポートナビ（各分野の参考図書や関係する Web サイトについて、教員にご紹介いただき公開するサービス）等、様々な教育支援を行っています。

学生協働

平成 21 年度の本館リニューアル以降、学生協働による活動の充実を進めています。「学びサポート企画部」、「阿波ビブリオバトルサポーター」、「ライブラリー・ワークショップ」の3つの学生サークルがあり、活発な活動を行っています。中でも本館のピア・サポートルームに設けた Study Support Space（SSS）は、徳島大学生の学習相談に、教員・図書館員・大学院生が応えるユニークな企画です。

学びサポート企画部



Study Support Space (SSS)



阿波ビブリオバトルサポーター



ライブラリー・ワークショップ



研究支援① 電子ジャーナル等の整備

徳島大学の学術研究基盤として重要な電子ジャーナル及び文献データベースは、学内合意を基本として全学共通経費等により整備し、利用環境を整えています。



研究支援② オープンアクセスの推進・普及

平成 28 年 1 月「徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針」を裁定し、公的資金により得られた研究成果はすべて徳島大学機関リポジトリにより公開することとしています。

・徳島大学機関リポジトリ登録件数 6,957 件（令和 2 年 3 月 31 日現在）



平成 26 年ノーベル物理学賞を受賞された中村修二教授は平成 6 年度に本学で博士（工学）の学位を取得されており、同氏の博士論文「InGaN 高輝度青色 LED に関する研究」を本学機関リポジトリで読むことができます。

社会貢献① 貴重資料のデジタル化とインターネット公開

デジタル化を順次実施し、「貴重資料高精細デジタルアーカイブ（近世古地図・絵図コレクション）」、「蜂須賀家家臣団家譜史料データベース」、伊能図の高精細画像と地理情報システムを連携させた「伊能図学習システム」を公開しています。

社会貢献② 学術講演会・各種展示等の開催

貸出を含めた学外の方への図書館サービスを行っています。また一般市民向けの学術講演会や各種展示等を開催しています。平成 25 年度に徳島市立図書館、平成 28 年度に鳴門教育大学及び徳島県・徳島県教育委員会との間で図書館活動に関する協定を締結し、各種取り組みを協力して行っています。





貴重資料

附属図書館には、江戸時代に阿波（徳島県）と淡路（兵庫県淡路島）の両国を支配していた徳島藩及び蜂須賀家ゆかりの資料が収蔵されています。これらは近世における地域史や藩政史の研究資料として学外からの利用だけでなく、徳島を知る手がかりの資料として地域や世界の人々にデジタル画像にして公開しています。



御城下絵図（題簽）

近世古地図・絵図コレクション

江戸初期～明治期（作成年不明を含む）

附属図書館には、200点を越える絵図・古地図類が貴重資料として所蔵されており、いずれも学術・文化的価値が高い資料です。そのおもな内訳は「徳島」54組88点、「全国」16組19点、「諸国」48組56点、「江戸」44組44点、「京都」16組17点、「世界」16組21点となっています。これらの古地図の中には、蜂須賀家旧蔵の大集書であった「阿波国文庫」の印影が押されている資料が含まれています。（昭和26（1951）～昭和33（1958）年受入、本館貴重資料室収蔵）

阿波国（徳島県）・淡路（兵庫県）関連

「徳島」の中には、阿波国・淡路国の国絵図（5鋪）^{注1}をはじめ、徳島や洲本の城下絵図、近世後期の実測分間絵図（郡図・村図）、川絵図や村絵図などが含まれています。



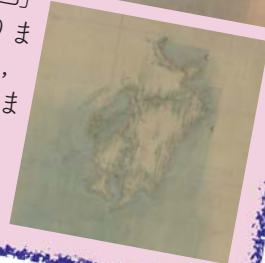
左：阿波国大絵図
右：御城下絵図



伊能図（伊能忠敬の関係する絵図）

「全国」の古地図の中には、伊能勘解由（忠敬）が作成した「沿海地図」（東日本3鋪；1804年）や「大日本沿海図稿」（西日本4鋪；年不詳）の中図、慶応3（1867）年に幕府開成所から発行された「官板実測日本地図」（東日本4鋪）があります。「諸国」の中には、「豊前国沿海図」が含まれています。

大日本沿海図稿
（上：南海，下：西海）



世界図・地球図

海外から入手した地図をもとに、わが国で近世後期から幕末期に刊行された世界図・地球図のうち、「重訂万国全図」「地球輿地全図」「萬国総界図」などが含まれています。多くは木版色刷図となっています。

（注1）国絵図とは

国絵図とは、慶長10（1605）年、正保元（1644）年、元禄10（1697）年及び天保6（1835）年に幕府が各大名に命じて調進させたもので、寛永年間（1624～1644年）にも幕府巡見使を通じて献上されたといわれています。これら幕府に提出されたもののうち、幕府が直接作成した天保国絵図を除いては多くが失われていますが、諸藩が所有した控図や下図が今日に伝えられています。





地球全図 (天保4年 [1833])

蜂須賀家家臣成立書并系図

天保5(1834)年～文久元(1861)年 (一部江戸初期, 明治期を含む)

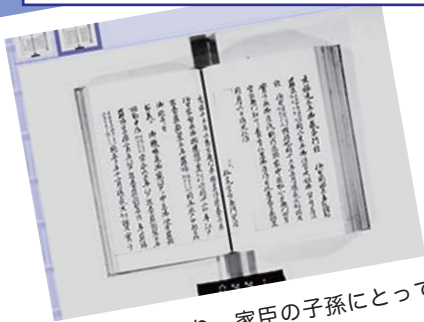
「蜂須賀家家臣成立書并系図」は、徳島藩士各家が代々の家督相続者について、召出・相続・隠居・死亡の期日、禄高、役職及び系図・家紋などを書き上げ藩庁に提出した歴資的価値の高い資料です。天保5(1834)年に作成され、その後文久元(1861)年に書き継いだものが大部分ですが、一部寛政年間や明治期に書かれたものを含みます。

提出者は家老などの重臣から無足人と呼ばれる下級家臣までのすべてに渡りますが、重臣の家譜にあたるものは、現在も蜂須賀家が所蔵し、最下級の家臣についての部分は国文学研究資料館に収蔵されています。徳島大学で所蔵しているのは、最上級と最下級を除く、いわば家臣団の中核にあたる1,802家の家譜であり、近世における国持大名家臣の様相について、多様な情報を有する貴重な資料です。収蔵時は各家譜ばらばらの状態でしたが、収蔵後に裏打ちや和装を施すなど長期保存のための処置を行い、249冊に分け整理、保存しています。(昭和56(1981)年度受入、本館貴重資料室収蔵)



貴重資料デジタル化事業

蜂須賀家家臣団家譜資料データベース



研究資料であり、家臣の子孫にとって先祖を知る手がかりです。

附属図書館では、貴重資料の利用と保存を両立させる手段の一つとして、江戸時代のデジタル化を行っています。江戸時代に阿波国・淡路国を支配していた徳島藩及び蜂須賀家が所蔵していた資料の中から蜂須賀家家臣団(重臣・最下臣除く)の家系譜や役職などの情報を検索できるシステム、全国的に知名度の高い「伊能図」などの高精度画像をインターネット上に公開しています。

貴重資料高精細デジタルアーカイブ



近世の古地図・絵図を鮮明に閲覧できます。



伊能図学習システム

地理情報システム(GIS)との連動で伊能図作成時の測量・作図技術がわかります。



特殊資料



個人文庫

江戸中期～近現代（作成年不明含む）

附属図書館には、長い開館の歩みの中で徳島にゆかりのある人物が所蔵していた郷土史料・和漢書、江戸期の医学書に関する史料を「個人文庫」として所蔵・保存しています。また、その他の資料として、古文書や書簡などの資料を所蔵しています。

資料名	内容	備考
泉山文庫	2,905 点。郷土史家・島田麻寿吉（しまだ・ますきち、1874～1947）氏旧蔵の郷土資料及び和漢書のコレクションです。江戸時代から昭和初期にかけて刊行された一般に流布している書物が中心ですが、日本史関係の図書や史料が系統的に収集されています。島田麻寿吉は徳島県阿南市生まれの郡会議員であると共に、郷土徳島を実地調査によって、郷土史研究を行った人物です。「泉山」は麻寿吉の号を示します。（※1）	昭和 26（1951）年度受入本館和装本資料室収蔵
布川文庫	299 点。徳島県阿波市土成町在住の村会議員であった布川清二郎（ふかわ・せいじろう）氏旧蔵の江戸時代後期の天和期から寛政期に及ぶ医学書です。古医書『編註医学入門』、『切要方義』や、朝鮮李朝の最上の医書として尊重された『東医宝鑑』の訂正版である『官刻訂正東医宝鑑』などの東洋医学書、本草学などの医薬に関する図書、『論語』等の東洋思想書などが含まれます。（※2）	昭和 39（1964）年度受入蔵本分館収蔵
山西家文庫	165 点。江戸時代の中中期以降撫養（鳴門市）で廻船問屋を営んでいた山西家の古文書です。山西家は、徳島藩の専売品である塩を輸送し江戸から肥料を仕入れて徳島に帰るといふ廻船業からはじめ、江戸時代の末期には、北は北海道から南は九州を結ぶ流通を、多くの手持ち船を経営して行っていました。徳島大学では、「船手算用帳」をはじめとする史料の寄贈を受けて、大切に保管しています。（※3）	平成 17（2005）年度受入本館和装本資料室収蔵
喜田貞吉関係資料	830 点。徳島県那賀郡檮淵村（現在の小松島市）出身の歴史学者である喜田貞吉（きだ・さだきち、1871～1939）の自筆原稿及びノート、書簡等の資料です。日本歴史地理研究会を組織して学術雑誌『歴史地理』を発刊しました。古代史、建築史に多大の貢献があります。郷土史研究への貢献も大きく、多くの後進を育てました。（※4）	平成 16（2004）年度受入本館和装本資料室収蔵

※1 日本の大学所蔵特殊コレクション (http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection_detail.php&p_id=541) 抜粋

※2 日本の大学所蔵特殊コレクション (http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection_detail.php&p_id=543) 抜粋

※3 徳島大学附属図書館報メルマガジン「すだち」第6号（2005/07/19）抜粋

※4 ブリタニカ国際大百科辞典

大型コレクション

近世～近現代

大型コレクションとは、昭和 53 年以降に文部科学省（旧文部省）から全国共同利用外国図書購入費（大型コレクション）の配分を受けて収集し、学内外の利用に供している特別資料で、以下の資料を所蔵しています。

資料名	内容	備考
労働関係等学位論文 Industrial Relations and Labor Management. 1942-1978	776 冊。米国の労働関係の学位論文リプリント集です。	昭和 61（1986）年度受入本館 2 階西閲覧室収蔵
空中写真 四国東部地域（建設省国土地理院）	約 5,700 枚。空中写真の撮影年度は、昭和 49～53 年です。撮影縮尺は 8 千分の 1～1 万 5 千分の 1 です。地形・建造物の立体視が可能であり、地形・地質等の基礎資料として地理学・経済学等の広範囲な分野の利用ができます。	平成 3（1991）年度受入本館 3 階書庫収蔵
（ランドルト＝ベルンシュタイン数値表）Landolt-Börnstein Numerical data and functional relationships in science & technology	59 冊。物理・化学・天文・地球物理・工学にわたる広範囲な物理定数表です。	平成 7（1995）年度受入本館 2 階東閲覧室収蔵
（ガレノス全集）Galen: Omnia quae extant opera 11 vols in 7. 1550-51	7 巻。1550～1551 年にヴェネチアで刊行。古代ギリシアの医学者ガレノスの業績集大成です。	平成 11（1999）年度受入蔵本分館収蔵

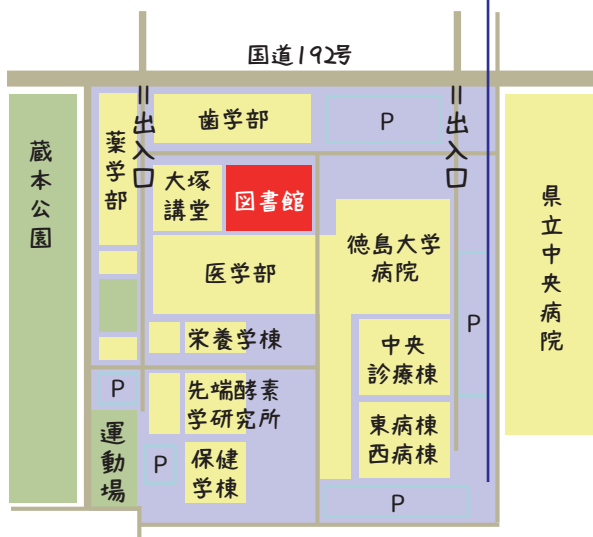




所在地・交通案内



徳島大学蔵本地区MAP



◎蔵本分館

〒770-8508 徳島市蔵本町3丁目18番地の15 蔵本キャンパス内

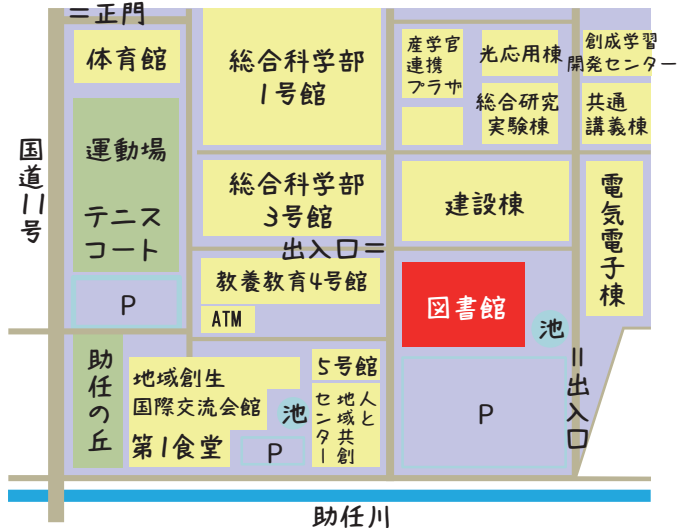
【徳島空港から】

- ・徳島駅行リムジンバスに乗り、「徳島駅」下車、バスまたはJR乗換え

【JR徳島駅から】

- ・徳島市営バス 徳島駅前から「上鮎喰行」行、「地蔵院」行、「名東」行、「天の原西(延命)」行乗車「県立中央病院・徳島大学病院前」又は「医学部前」で下車、徒歩約5分
- 「中央循環線(右回り)」行乗車、「県立中央病院・徳島大学病院前」で下車、「医学部前」は停車しない
- ・徳島バス 徳島駅前から「鴨島方面」行・「石井循環線(右回り)」に乗り、「県立中央病院・徳島大学病院前」又は「医学部前」で下車、徒歩約5分

徳島大学常三島地区MAP<部分図>



◎本館

〒770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地 常三島キャンパス内

【徳島空港から】

- ・徳島駅行リムジンバスに乗り、「徳島大学前」下車、徒歩約5分

【JR徳島駅から】

- ・徳島市営バス 徳島駅前から「島田石橋」行、「商業高校」行に乗り「助任橋」又は「徳島大学前」下車、徒歩約5分
- 「中央循環線又は川内循環線(左回り)」等に乗り「助任橋」又は「徳島大学前」下車、徒歩約5分





徳島大学
附属図書館（本館）HP



徳島大学
附属図書館（蔵本分館）HP



徳島大学
機関リポジトリ HP



徳島大学マスコットキャラクター
とくぼん



徳島大学にご支援を！

徳島大学基金

検索



発行：徳島大学附属図書館

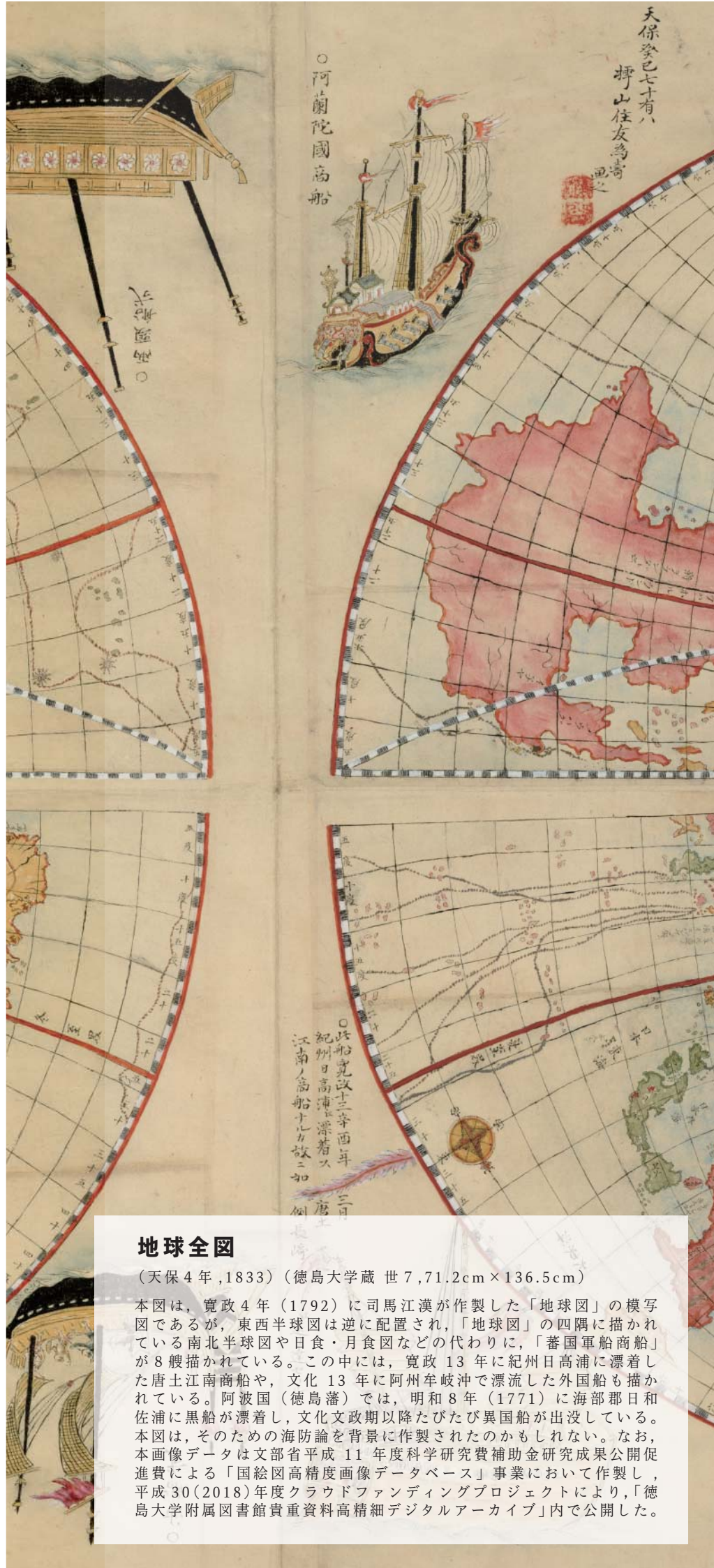
☎770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地

Tel. 088-656-7584

徳島大学附属図書館ホームページ

<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp>

令和2年8月発行



地球全図

(天保4年,1833) (徳島大学蔵 世7,71.2cm×136.5cm)

本図は、寛政4年(1792)に司馬江漢が作製した「地球図」の模写図であるが、東西半球図は逆に配置され、「地球図」の四隅に描かれている南北半球図や日食・月食図などの代わりに、「蕃国軍船商船」が8艘描かれている。この中には、寛政13年に紀州日高浦に漂着した唐土江南商船や、文化13年に阿州牟岐沖で漂流した外国船も描かれている。阿波国(徳島藩)では、明和8年(1771)に海部郡日和佐浦に黒船が漂着し、文化文政期以降たびたび異国船が出没している。本図は、そのための海防論を背景に作製されたのかもしれない。なお、本画像データは文部省平成11年度科学研究費補助金研究成果公開促進費による「国絵図高精度画像データベース」事業において作製し、平成30(2018)年度クラウドファンディングプロジェクトにより、「徳島大学附属図書館貴重資料高精度デジタルアーカイブ」内で公開した。